

WELgee

Join us !!
WELgee ファミリー
現在 298 人 !

難民とともに日本社会の未来を築く
WELgee ファミリーの一員になりませんか ?

マンスリーサポーターを募集しています。

私たちの活動の特徴は、「一方向の支援」ではなく
「中長期的な人生の再建のための伴走」を行なっていることです。
「中長期的な伴走」とは、個々の難民の方が日本社会と繋がるための取り組みであると同時に、
日本社会が彼らと関係を築いていくための活動もあります。

WELgeeだけではなく、こういった価値観を体現する人や組織が増えてゆくことで、
社会は異なる背景を持つ様々な人たちがより生きやすいものになるはずです。
生まれた国や人種、宗教などの境遇にかかわらず、どんな人でも一人の担い手として、
未来を築くことができる社会を、私たちとともに実現しませんか ?

Join us !
↙ WELgee ファミリーのご登録はこちらから ↘



本報告書の内容に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

| 特定非営利活動法人 WELgee (ウェルジー) 英語表記 : Nonprofit Corporation WELgee

| 所在地 〒150-6027

東京都渋谷区恵比寿4丁目20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー 27階
デジサーチアンドアドバタイジング内「COEBI」

| メール info@welgee.jp

| SNS [f](#) @welgee [t](#) @WELgee_Japan [g](#) WELgee(ウェルジー)@WELcome+refugee

| 理事 渡部 カンコロンゴ 清花、安齋 耀太、安西 翔平

| 監事 東樹 敏明、井上 智映子

| 職員 渡部 カンコロンゴ 清花、山本 菜奈、林 将平、渡辺 早希、坂下 裕基、武居 裕介

| 顧問弁護士 小野田 峻

| 顧問行政書士 長岡 向剛

| 発行日 : 2022年8月31日 (デザイン: 平船 瑞生)

yogibo
SOCIAL GOOD

日本
財團
THE NIPPON
FOUNDATION

協賛



Co-Creative Adventure

WELgee

WELgee Annual Report 2021-2022
2021年度 ウェルジー活動報告書

WELgeeの活動を応援してくださっているみなさんへ

活動6年目の報告書となりました。

どんな接点から、いま、この冊子を手に取ってくださっていますか？

NPO法人化前から応援してくださっている方、ニュースでWELgeeを知ってくださったという方、企業向けウェビナーに参加したという方、もしかしたら難民人材と共に働く社員さんかもしれません。祖国を逃れざるを得なくとも、自分の人生を諦めずに前に進む、そんな人たちの人生の再建を応援する仲間の輪が日本でも着実に広がっていることに心から感謝しています。昨年の報告書の前書きには「コロナで日本中・世界中が大きく揺れた年でした」と書きましたが、アフガニスタンでのタリバン復権、ロシア軍のウクライナへの侵攻などが起きた2021年度は、WELgeeにとってさらに大きな揺れを経験する年でもありました。難民・避難民にとっても、支える保証人や支援者にとっても、緊急退避後の人生の再建が今後より鍵になることが確実となりました。

さて【難民の人たちが人材として活躍することを可能にするプログラムは日本でも作れるのか？】というWELgeeの仮説検証結果は、そろそろ「YES！」と言えるのではないかでしょうか。難民人材の活躍事例をぜひご覧ください。ここからは着実に育成メニューを増やしながら、さらに多様な事例を積み上げてゆくフェーズに入ります。背伸びしすぎず、かつ自分たちの成長の少し先を見据えながら進む、そんな挑戦を重ねてゆきたいと考えています。個人でも、自分の会社でも、何か一緒にできるかも！と感じていただけるよう、メンバー一同で執筆した活動報告書になります。是非お楽しみください！



WELgee代表 渡部 カンコロンゴ 清花

Contents

■ WELgeeとは？	01	■ 協賛・ご寄付の紹介	14
■ 2021年度のハイライト	03	■ 協働事例の紹介	15
■ 事業紹介	05	■ 財務報告	17
■ 職員が振り返る2021年	11	■ 2022年度のWELgee	18
■ Team WELgee	13		

本書では、人種・宗教・国籍・特定の社会的集団の構成員資格・政治的意見を理由に迫害されるという十分に理由のある恐怖のために国籍国外におり、かつ、その国の保護を受けられないか、そのような恐怖のためにそれを望まない人のことを「難民」と呼び、WELgeeとともに活動をする難民の方々のことを「志を持つ、多国籍な仲間」という意味を込めて「インターナショナルズ」と呼んでいます。

難民の方のプライバシー保護のために、一部画像を編集しています。



■ WELgee とは？

WELgee

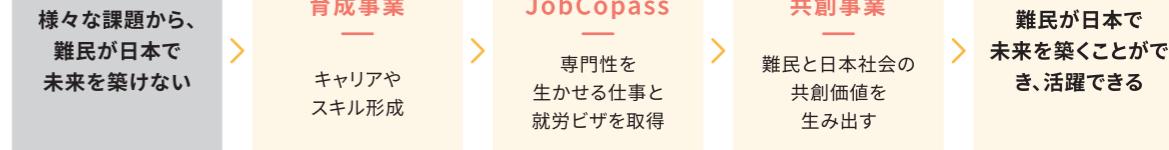
WELCOME + refugee
～難民の人々も歓迎できる社会に～

Vision 自らの境遇にかかわらず、ともに未来を築ける社会

Mission 志を発掘しつながりを広げ、未来をデザインできる仕掛けをつくる

WELgeeは紛争・迫害などから逃れ、希望をもって日本にやってきた難民たちが、経験や専門性を生かして希望を持って日本で人生を再建するため「就労・キャリア」を手段にプログラムを展開しています。

Approach



紛争や暴力、人権侵害などにより、現在世界では1億人以上が故郷を追われています。私たちの暮らす日本にも、平和を求めて逃れてきた難民と呼ばれる方々が暮らしております。

現在、日本には政府に「難民」として認めてもらうための難民認定手続を行っている「難民認定申請者」は、1万2千人（※1）ほどおり、本国の情勢不安により日本への滞在を認められているウクライナや人やアフガニスタン人、ミャンマー人が4,000名ほどいるとされています。

※1 … 総務省統計局「国籍・地域別 在留資格（在留目的）別 在留外国人 2021年12月」（最終閲覧日：2022年7月27日）

■ 日本の難民認定申請数と認定数



■ 難民申請者が経験する法的・社会的な壁



■ 2021年度のハイライト

2021年の社会の変化

2021年度は、世界各国で紛争や軍事衝突が起き、多くの市民が故郷からの避難を余儀なくされました。2021年2月におきたミャンマーの国軍によるクーデターにより20万人以上（※1）が隣国や他地域へ避難。また、2021年8月にはアフガニスタンにて、反政府武装勢力タリバンが首都カブールに進攻、新政権樹立の混乱や政権下での重大な人権侵害により、67万人以上（※2）が避難を余儀なくされました。さらに、2022年2月に生じたロシア軍によるウクライナ侵攻により、990万人（※3）以上がウクライナから外国へと避難しました。

※1…UNHCR『Myanmar situation』 ※2…UNHCR『Afghanistan situation』 ※3…UNHCR『Ukraine situation』 最終閲覧日 2022.8/1

日本にも多くの方が逃れ、その様子はメディアでも大きく報道されました。かつてないほど難民への注目が集まる中、WELgeeは5年間・200名以上の難民に伴走をした経験や知見を生かし、ウクライナ・アフガニスタン避難民へ就労伴走を拡大。さらに、就職活動中の難民に対して育成機会を提供する「育成事業」を開始し、72名に対してキャリア教育やメンターシップ、スキル開発の機会を提供しました。



事業紹介

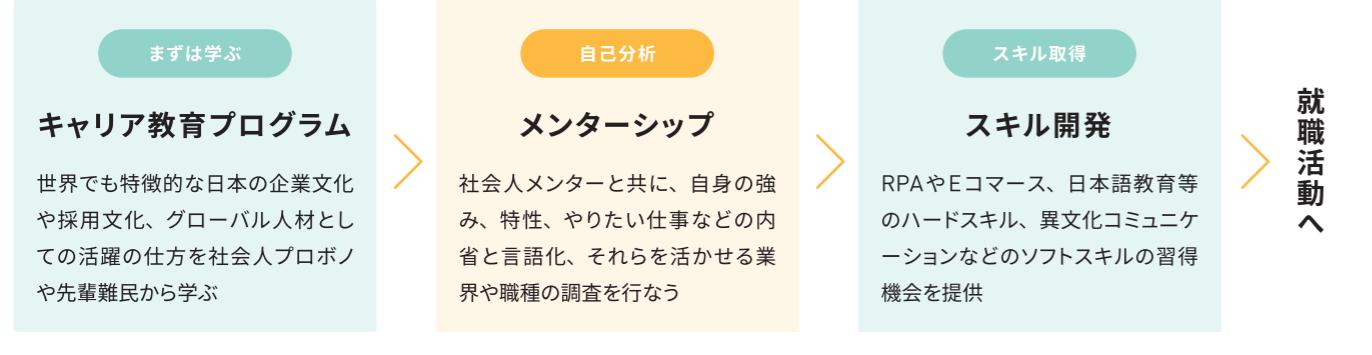
WELgeeで「自らの境遇にかかわらず、ともに未来を築ける社会」に向けて、課題当事者でもある難民と日本のビジネスセクターが関わりあうことで、支援や課題解決にとどまらず、社会にポジティブな変化を生み出す「Co-creation（共創）」をモットーに事業展開をしています。

1. 育成事業 → 2. 就労伴走事業 → 3. 共創事業

キャリアやスキル形成

育成事業は、難民の方一人ひとりが、自身の志や強み、人生経験を最大限に活かした就職活動ができるように、個々に合わせた最適な育成機会を提供する事業です。

今年度は、72名のインターナショナルズに対して、「キャリア教育」「メンターシップ」「スキル開発」の3つの柱をもとに、日本のビジネスシーンでの活躍に向けたステップアップ機会を提供しました。



Pick up! キャリア教育プログラム

参加者 … 48名

キャリア教育を柱にしたプログラムにおいては、インターン生や社会人プロボノの自発的な企画・運営によって、毎週のようにさまざまなオンラインイベントやセミナーが実施されます。

こうした機会が全8回開催され、計48名が参加しました。インターナショナルズの就職活動における情報格差を埋めていき、同時に難民の境遇に陥ったとしても、現実的に日本でスキル開発やキャリアアップ、在留資格の安定化、活躍が可能だという動機づけも行います。

事例

「日本語学習と日本の文化について」のイベントでは、日本語教師の資格をもつプロボノから、日本語の学習方法や習慣づけ、日本での日常生活や人間関係での実践方法を紹介。

参加した約10名のインターナショナルズから質問やアイディアが飛び交い、ここから、インターナショナルズがWELgeeメンバーと日本語で会話をするオンラインイベント「日本語サロン」の定期開催が始まりました。



Pick up! メンターシッププログラム

参加者 … 7名

2021年度に着想、仮説検証を開始。社会人プロボノがメンター（指導者）、インターナショナルズがメンティ（指導される側の人）となり、職員のサポートのもと、3ヶ月間かけて自己内省と就職活動に伴走します。メンターは、メンティの経験やスキルの棚卸しを行いながら、日本におけるキャリアプランや強み、関心のある仕事を再定義し、マッチする企業や求人のピックアップからレジュメの改善、実際に企業や求人へ応募を行います。2021年度にはメンティ2名とメンター2名の2ペアでパイロットとなる第1期を実施、続く第2期はメンティ5名とメンター7名の5ペアで実施しました。

事例

非常に複雑で困難な境遇にいる人の動機づけや就労伴走は、思いどおりには進みません。

それでも第1期では、メンターとメンティが辛抱強く関係性構築とペアワークを進めた結果、プログラム終了後から半年後にメンティ1名のホワイトカラー職種への就職が実現。

もう1名も日本の方と結婚し新生活をはじめつつ、JobCopassを通じて企業の選考プロセスまで進むことができました。



参加者 … 17名

Pick up! スキル開発プログラム

スキル開発プログラムでは、多様なインターナショナルズの個性や強み、パッションを磨き、一人ひとりが目指すキャリアや働き方とマッチしたスキルを習得する研修を、他団体と連携して提供します。2021年度から特に注力はじめた研修は、日本での活躍を目指すにあたって必要不可欠な日本語です。他団体主催の日本語研修に加え、2021年度末からはWELgeeが直接日本語学校と連携し、ビジネスレベルの日本語習得を目指した中期プログラムを設計、試験運用を進めています。

事例

パイロットとなる第1期は、すでにJobCopassを通じて日本企業で正社員として働いており、特に職場で日本語を使う機会が多い2名で開始しました。朝から晩まで仕事をしてから帰宅してすぐに始まるオンラインでの日本語研修。受講者はフォローアップの面談をするごとに複雑な自己表現を日本語でできるようになっていき、職場での様子や家庭の状況などを、日本語のみで表現することができるようになりました。



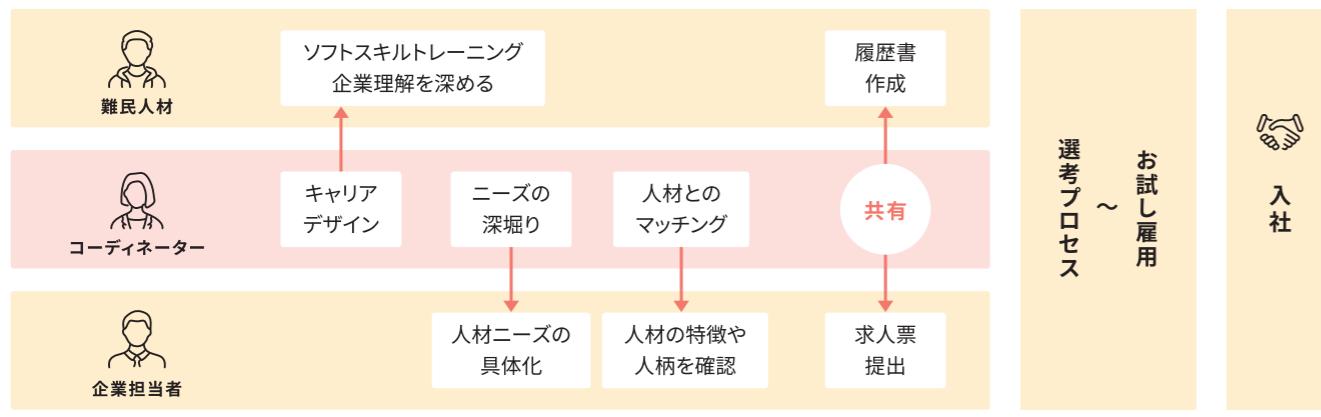
1, 育成事業

2, 就労伴走事業

3, 共創事業

専門性を活かせる仕事と就労ビザを取得

異文化コミュニケーションや外国人材に精通した経験豊富なキャリアコーディネーターが企業・人材双方へ伴走し、キャリアカウンセリングから、企業でのポジションづくり、人材とポジションのコーディネーション、オンボーディング、お試し雇用、定着まで一貫してサポートします。2021年度は16名の人材を企業に紹介し、うち3名が能力や経験を生かした就労機会を得ることができました。さらに、総合病院で勤務するMさんと、大手バイクメーカーの新規事業開発部で働くVさんの在留資格を「技術・人文知識・国際業務」へ変更することに成功しました。



Pick up! 就労伴走の事例

ナイジェリア出身のVさんが、ヤマハ発動機の新規事業開発の部署で採用されました。Vさんは母国で民族の権利を訴える活動をしていた際に当局の迫害を受け、日本へ来日。難民申請をしてからは、金属加工工場などで食いつなぐための仕事—いわゆる”サバイバルジョブ”で生き延びていました。WELgeeが彼に出会ったのは、2年半前。経済的・精神的にも厳しい日々が続く中でも、WELgeeは彼に寄り添い続けました。その日を生き抜くための仕事に疲弊する毎日。母国の複雑な状況。法的、社会的、言語的なハードル。様々な困難がある中でも、彼は諦めず、自分が日本で何を成し遂げたいのかを問い合わせ続け、WELgeeもそれに答え続けました。

彼の努力と、さまざまご縁が重なり、彼はヤマハ発動機で新規事業開発を行う白石氏と出会いました。現在Vさんは、ヤマハ発動機の社員として東アフリカを舞台に、新たなビジネスの価値創造に挑んでいます。



採用されたインターナショナルズの声

ヤマハ発動機に就職したVさん

僕は今、夢だったアフリカの開発に携わる仕事をすることができます。それは、WELgeeのチームが世界を変えようと決意したからだ。WELgeeは、僕がずっと求めていた、人生の意味と、方向性を与えてくれた。心から感謝しているよ。

採用した企業の声

ヤマハ発動機 NV 事業統括部 白石 章二氏

優秀な人はたくさんいるが、困難を行動力で乗り切ってきた人はそんなにいない。難民には新規事業に欠かせない突破力がある。



Pick up! 定着伴走の事例

JobCopassでは、本採用してから約半年ほど細やかなフォローアップをした後も、必要に応じて人材と企業のコミュニケーションを仲介します。

例えば、JobCopassを通じて2019年に、生コンクリートの製造を行う日系企業の品質管理の職種で採用されたアフリカ出身のPさんの家族に、第三子が生まれたという嬉しいニュースを受けました。

しかし出産日が近づくタイミングで、Pさんとしては日本の職場における、男性社員の育児休暇の取得がどのように受け止められるのかを不安に感じ始めました。そこでキャリアコーディネーターが人材と企業双方とコミュニケーションをとり、Pさんとは日本企業での出産や育児を取りまく対応の現状と変化について共有、企業側にもPさんの家庭状況やニーズを共有しながら、必要な育児休暇の日数を調整するサポートをしてゆきました。

Pさんの職場にとっては、初めての男性社員の育児休暇取得です。そんな中でも日頃から真摯に仕事に向き合ってきたPさんへの信頼もあり、無事育児休暇を調整いただき、WELgeeとしてもPさんや家族へのケア、行政サポートに関する情報提供などを行いながら、家族にとっての一大イベントに伴走する経験となりました。



WELgeeを通じて、難民人材の採用やインターンシップ受け入れをしませんか？



5年間、200名以上の難民のキャリア伴走をしてきた経験を活かし、スキル・経験はもとより、社風と人柄の相性なども踏まえて最適な人材をご紹介します。

これまでにはヤマハ発動機株式会社、株式会社オカムラ、ベースフード株式会社など上場企業からベンチャーまで、様々な企業規模や業界の19企業で難民の人材が活躍しています。ご興味がある方は、右のQRコードから詳細をご覧いただけます。ぜひご覧ください。



● サービス利用実績 (2017年9月～2022年8月)

新規接点
19名



西アジアの青年がゼロからプログラミング技術を習得しIT系スタートアップに就職



西アフリカの青年が大手バイクメーカー新規事業開発部のアフリカ事業チームに参画

インターンシップ
2名



東アフリカ出身元銀行員がフードテックベンチャーのHRチームに就職



中部アフリカ出身プログラマーがIT系ベンチャーの開発チームに就職

在留資格変更
5件

1, 育成事業

2, 就労伴走事業

3, 共創事業

難民と日本社会の共創価値を生み出す

「難民」という言葉の背景には、ユニークな個性があります。

共創事業は、一人ひとりの難民が持つスキルや経験を、日本社会の様々なアクターの課題解決に生かし、お互いの強みを活かした価値創造を行います。2021年度は36件の企業研修・講演と、日本に逃れた難民の半生をVR映像を活用し追体験するデジタル教材の開発を行いました。

難民人材

- ✓ 母国での医療従事者として働いてきた経験
- ✓ アフリカ諸国でマーケティングリサーチャーとして働いた経験
- ✓ 弾圧の中でも声をあげて社会をよりよくしようとしてきた経験

日本社会

- ✓ アフリカ・アジアでの病院設立を行いたい医療法人さま
- ✓ アフリカや中東などの海外市場で新規事業を検討している企業さま
- ✓ 組織を牽引するイノベーションを将来的に生み出していく社員のこの力を高めたい企業さま

イノベーション

Pick up! 共創事業の事例 -1

NPO法人クロスフィールズと協働し、経済産業省が推進する『未来の教室』STEAMライブラリー事業にて、日本に逃れた難民の半生をVR映像を活用し追体験するデジタル教材を開発しました。

難民として母国を離れ、新しい国で困難に直面しながらも、必死に生き抜こうと歩むひとりの難民の半生を疑似体験することを通じて、自分とは異なる他者の視点から物事を捉え、理解しようとする想像力を働かせることと、他者の置かれた立場や状況に立つ感性を育くみ、難民となつた人の生きる姿勢に触れ、人生において大切にしたいことについて考えることを目標とし、中高生向けの教材を開発。授業の様子は各種メディアで大きく報じられました。



参加者の声

生徒の方

難民と聞いて、以前は母国から逃れてきた人と大まかなイメージや偏見もありました。しかし今回授業を受けて、それぞれに様々な背景があることを知ることができて、普段関心を向かないトピックに少し興味がわきました。

参加者の声

教師の方

普段は関わりを持つことができないコンゴから来た人物に触ることは、生徒たちにとって刺激的で視野が広がる経験となりました。ジョセフさんの人生を追いかける中で生徒たちが自身と向き合い、今後何を大切にしながら人生を歩みたいかを考えるきっかけを与えることができました。

Pick up! 共創事業の事例 -2

事業統括 山本と、WELgeeアンバサダーのキャシーさん（仮名）が、ウィル・シード主催、サントリーホールディングスの海外トレーニングの一環である「グローバル座談会」に登壇しました。

研修はオンラインで行われ、全体で20名ほどが参加。目的は、海外実務研修生として渡航を予定している社員の方々が、社会問題への関心・視野を広げること、また、バックグラウンドの異なる様々な人と自分の意見を持って議論できるようになるためのきっかけづくりです。

「グローバル座談会」でのWELgeeのプレゼンでは、SDGsに関連づけ、社会から取り残された人たちの包摶をしながら、経済成長を目指す取り組みの例として、日本における「難民」の実情と、彼らを取り巻くエコシステムを紹介しました。



参加者の声

参加社員の方

一般的な難民=貧困というイメージ以外にも、政治や宗教、ジェンダー等の問題から難民にならざるを得ない方が実際にいらっしゃることを改めて現実のこととして認識することができました。

「難民問題」という切り口で見ると、貧困問題や政治問題に目が行きがちですが、難民の方のバックグラウンドに目を向け、その方が人材として活躍できるように支援をしようという視点が、今回の研修の中で非常に面白いと思いました。民間企業で働く者として、難民問題に対して何かできることは何か考えていくべきだと思います。

座談会の中であった「難民の方にチャンスを与えて欲しい」という要望を民間企業が率先して実施していくことで、国の難民に対する考え方にも変化をもたらせるのではないかと感じました。



■ 職員が振り返る 2021 年

STORY

01 「働く場所」の意味を捉え直した 2021 年

2021年8月、アフガニスタンからアメリカ軍の撤退とタリバン政権の台頭がはじまったとき、日本に暮らすアフガニスタンの難民の仲間たちの間にも激震が走りました。現地にいる家族や親族に危険が降りかかっている、一刻も早く安全を確保しなければと夜通し現地とのコミュニケーションや国外機関との交渉に奔走した仲間もいました。そんな中、WELgee のプログラムを通じて数年前にITスタートアップに就職した仲間は、同僚主導でクラウドファンディングを呼びかけ、集まつたお金をアフガニスタンにいる家族の生活と緊急退避にあてることができました。とてつもないストレス下に置かれたその仲間にとって、日本の同僚たちは大きな心の支えになった、と振り返ります。

故郷も財産も大切な家族も居場所もすべてを置いて、命を紡ぐために日本にやってきた難民の人たち。そんな彼らにとって働く場所は、自分のビジョンや挑戦を形にする場所であり、学び成長する機会であり、経済的や法的な安定性を実現する支えになると同時に、日本での居場所、「第二の家族」にもなりえるのです。

いま多くの仲間たちは難民申請を続けながら、末端労働者として、コロナ渦になれば真っ先に失業する立場でサバイバルを続けています。一人ひとりが日本での第二の人生を安心して切り拓ける場所とつながれるよう、今後も邁進します。

事業統括
山本 菜奈

STORY

02 多種多様な「共創(Co-Creation)」が生まれた年

2021年度は多種多様な「共創」が生まれる年となりました。世界各国で生じた難民危機が大きく報道され、日本における「難民」の注目度がかつてないほど高まった年でもありました。注目度の高まりとともに、様々な団体や個人の方々との「共創」が生まれました。

「日本に逃れた難民の半生をVRで追体験する」教材をNPO法人クロスフィールズ様と2ヶ国間で作成したり、デロイトトーマツ コンサルティング 合同会社様と国内外の難民の雇用包摶に関する調査を実施させていただくなど、これまでにない規模の協働を数多く実施し、社会に大きなインパクトを与えることができました。

さらに、様々な専門性を持つプロボノの方々がWELgeeの活動に参画し、これまでにないクリエイティブなアイデアでWELgeeの活動の新たな可能性を切り拓いています。WELgeeはこれからも「難民支援」を超えて、日本社会と難民との新しい共創（Co-Creation）を目指して活動を進めて参ります。

PR部統括
林 将平

STORY

03 少し先の未来を見据えて、目の前の一人ひとりに向き合った一年

2030年まで私たちはどんなインパクトを社会に生み出したいのか。「難民の活躍」が意味することは何なのか。インターナショナルズは具体的にどんなフェーズを辿り、フェーズ毎にどのようなサポートがあれば彼らのキャリアの歯車が、また、回り始めるのだろうか。

Co-creative advisorを迎へ、SVP 東京との協働期間が残り半年というこのタイミングで、改めて、経営課題の洗い出しと中長期計画の策定、彼らが日本で辿るフェーズの言語化、各フェーズに必要な支援事業の再構築といった、数年先を見据えながら、足元一つひとつ積み上げを行った一年でした。ミャンマー、アフガニスタン、ウクライナ等、各国情勢変化に伴う支援ニーズの増加と、もはや一団体ではどうにもならない現実を前に、キャリアに向き合うWELgeeの強みを活かした他団体や企業との連携があるのだと改めて実感し、メンターシップや日本語教育プログラムといった新たな育成プログラムとともに、難民活躍の機会づくりを拡大していく兆しが少しづつ見えてきています。

リソース部門統括
渡辺 早希

STORY

04 2人目の採用事例！「難民人材」たちが証明し紡ぐ「未来への轍」。

キャリアコーディネーター
坂下 裕基

コロナ禍ゆえ、多くの事例を生み出すことは難しい年度となりましたが、非常にユニークな採用事例などが生まれました。ここでご紹介させていただくのは、クーリエメイト社（ヤマハ発動機株式会社の子会社）において2人目の人材が採用されたケースとなります。

クーリエメイト社は、東アフリカ地域においてラストワンマイル事業等を展開しています。約2年前に採用された1人目はすでに事業の現場マネジメントを任せられており、彼の実績と2人目にあたる人材の方の人柄や能力が買われ、採用されました。このように最初の1人目のみでなく、雇用される側/する側双方の関係者にとって、WINがしっかりと担保され、新たな人材に興味を持っていただけるケースが少しづつ出てきています。

「先輩」の実績が活躍の舞台を待っている「後輩」に道を開いていく。そして、採用した企業や社会の新たな価値や未来をも創造していく信じ、私たちは皆さんと共に歩んでいきます。



05 ウクライナ避難民がトリガーとなった「難民人材」という Human Resource の認知と 「難民人材=日本企業の Business Development」という証明

キャリアコーディネーター
武居 裕介

この一年でWELgeeに対する世間の見方が大きく変化しました。その大きな要因がウクライナ避難民の存在で、「難民」という人材の存在を日本社会に急速に認知させ、日本企業においてもウクライナ避難民の人材を雇用したい!助けたい!という声が増加し、WELgeeに多くの問い合わせを頂くようになりました。

一方で、面談させて頂いたウクライナ避難民の候補者のほとんどが、スキルや経験値が非常に豊富で高くオーバースペックな人材ばかり。“日本社会側が世界からいかに遅れをとっているか”と改めて実感し、日本側が世界から学ぶ姿勢を常に持つ必要性をしみじみと実感しております。

また、難民申請中の候補者に関して、この一年間でのマッチングの実績は以前よりも増加し、企業内で十分に戦力になっている実例も増えてきました。まさに当初WELgeeが描いていた仮説が成り立っている証であり、日本社会においても難民人材が活躍できることが証明されつつあります。



Team WELgee

コアメンバーであるスタッフを紹介します。

フルタイム職員

代表・ファウンダー
渡部 カンコロンゴ清花

フルタイム職員

事業統括
山本 菜奈

フルタイム職員

PR部統括
林 将平

フルタイム職員

リソース部門統括
渡辺 早希

パートタイム職員

就労伴走事業部
キャリアコーディネーター
坂下 裕基

パートタイム職員

就労伴走事業部
キャリアコーディネーター
武居 裕介

業務委託

ファンドレイジング
コンサルタント
水溜 智士

業務委託

事務局サポート
奥江 英樹

プロボノ

行政書士
小野さやか

プロボノ

法人施策
チームリーダー
星加 まどか

プロボノ

法人施策
チームリーダー
山崎 康平

監事

株式会社グロービス
井上 智映子

監事

株式会社グロービス
東樹 敏明

顧問

顧問弁護士
小野田 峻

顧問

顧問行政書士
長岡 由剛

Co-creative Advisor



一般社団法人
Green innovation 代表理事
菅原 聰



ヤマハ発動機株式会社
フェロー 技術・研究本部 NV 推進担当
白石 章二



NPO 法人クロスフィールズ
共同創業者・代表理事
小沼 大地



セントラル石油瓦斯株式会社
代表取締役社長
太田 晃

プロボノ募集中！

WELgeeでは、本業で培った経験を活かし社会課題解決に取り組むプロボノ（※）が50名在籍しています。多国籍の難民当事者と関わる国際的な環境かつ多種多様なキャリアを積んできたメンバーとの協働を通じて、自身のスキルアップだけではなく、本業に活かせる様々な学びを得ることができます。

※プロボノ…「社会的・公共的目的のために、職業上のスキルや専門知識を活かして取り組むボランティア活動を行う人々」のこと



■ たくさんの方々に支えていただきました

2021年は6つの助成金の採択と、4つの団体・60名の個人より単発のご寄付を、4つの団体・174名の個人より継続的な寄付を賜りました。生きづらさや精神的な負荷を負う難民の方々へと丁寧な伴走を続けることができたのは、助成金や寄付をいただきました皆さまのおかげです。一部となりますが、サポートの方々をご紹介します。

● 法人寄付

三菱マテリアル *worlding!*

J.Feel

Daiwa House

● 法人寄付（継続寄付）

一般社団法人
Green Innovation

みつめる旅

株式会社
エムダブリュー

株式会社五島列島
なかむらただし社

● 個人の方

中根 由美子 様 / 阿部 悅子 様 / 板野 雅由 様 / 内山 直彦 様 / 出雲 充 様 / 利根川 裕太 様 / 中村 薫 様 など

● 採択 / 運用されたプログラム・助成金等



一般財団リープ共創基金・NPO 法人育て上げネット
『CashforWork2021』

avpn

AVPN Pooled Fund『KKR COVID Relief Fund
for APAC Recovery & Resiliency』

BSmile 募金

公益社団法人日本フィナンソロピー協会
『BSmile 募金』



日本財団
『2021 年度 助成事業』



中央労働金庫
『カナエルチカラ』



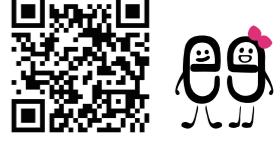
ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京
(SVP 東京)

WELgee ファミリーになって

難民の若者たちに「未来の投資」をしませんか？

紛争・差別・迫害などから逃れ日本にやってくる「難民」と呼ばれる人たちがいます。希望をかけて逃れてきた先の日本でも追い込まれ「自分は役に立たない人間だ」と可能性を閉ざしている人たちがいるのが現状です。実は彼らは将来的な故郷の担い手たちなのです。そんな若者たちの直面する壁を崩し、未来に投資するマンスリーサポーターになりませんか？

1日 30円～





■ 協働事例のご紹介

CASE 01 デロイトトーマツグループ ×WELgee

デロイトトーマツの有志のグループとの協働で「市場形成とルール形成を通じた雇用による難民包摶」という4ヶ月のリサーチプロジェクトを行いました。雇用を通した難民の方々の社会への包摶を実現するため、WELgee が積み上げてきた就労事業から見えてきた現状の整理や今後の取り組み可能性を包括的に網羅した、200 ページにもわたる最終報告書が完成。対象ごとの優先順位の検討や、海外でのユニークな成功事例、仕組みづくりの可能性などを検討することによって、視野が広がり、その中でもまず自団体として焦点を当てるべき部分についても明確になりました。



CASE 02 SMBC日興証券株式会社 ×WELgee

SMBC 日興証券のプロボノプロジェクトの協働先に採択いただき、2021 年 8 月から 12 月の約半年間、社員 10 名がプロボノ活動を行いました。活動内容としては、企業での「JobCopass」導入時に、担当者様に共有する採用にまつわる手引き書「虎の巻」の作成や、入社時に行うオンボーディングのためのオリエンテーションの企画、採用後の難民人材と企業のジャーニーマップと対応策などのまとめなど。
加えてインターナショナルズ向けに「日本企業で働くとは?暗黙のルールなど」というセミナーを開催し、SMBC 社員が参加者と活発な意見交換を行いました。



CASE 03 NPO 法人クロスフィールズ ×WELgee

NPO 法人クロスフィールズと協働し経済産業省が推進する『『未来の教室』STEAM ライブラリー事業』にて、日本に逃れた難民の半生を VR 映像を活用し追体験するデジタル教材を開発しました。難民として母国を離れ、新しい国で困難に直面しながらも、必死に生き抜こうと歩むひとりの難民の半生を疑似体験することを通じて、自分とは異なる他者の視点から物事を捉え、理解しようとする想像力を働かせることと、他者の置かれた立場や状況に立つ感性を育み、難民となった人の生きる姿勢に触れ、人生において大切にしたいことについて考えることを目標とし、中高生向けの教材を開発。教材を導入したドルトン東京学園での授業風景は、各種メディアで大きく報じられました。



CASE 04 リタワーカス株式会社 ×WELgee

リタワーカス株式会社と協働し、コーポレートサイトをリニューアルしました。WELgee が掲げる『共創』を体現した、ポジティブで力強いデザインに仕上りました。また、難民の「就労・キャリア」を軸とした 3 つの事業構成へ刷新しました。サイトでは、難民当事者とともに活動する WELgee だからこそお伝えできる、難民の方々の声を多くご紹介しています。複雑な課題をわかりやすくお伝えできるようにレイアウトやデザイン、文章にこだわりました。

今後は、活動の背景にある WELgee メンバーの思いや、協働先の企業さまやパートナーとの物語をお伝えするオウンドメディア「WELgee ジャーナル」を、随時公開してゆきます。



CASE 05 Yogibo ×WELgee

株式会社 Yogibo が実施するプロジェクト「TANZAQ」に WELgee が採択されました。

同社のスポンサーを受けて、ステークホルダーへの認知向上のための活動を強化します。TANZAQ とは、Yogibo がスポンサーとして社会課題に取り組む団体に広告を出稿することで、持続的な社会課題の解決を共に目指すプロジェクトです。本プロジェクトを通じて、Web サイトのリニューアルや、人材の魅力を伝えるコンテンツ発信、活躍事例の可視化を強化してゆきます。



CASE 06 SVP Tokyo ×WELgee

2019 年夏、就労伴走事業の走り始め、在留資格の書き換え実績はゼロ、千葉ハウスの試行錯誤の時期から始まった2年間の SVP Tokyo 協働プログラムが幕を閉じました。

「ジェットコースターのような2年間」「自分も長く生きてきたが、それを上回る波瀾万丈があり驚きの連続だった」「逆境パッショントってこういうことだったんだと知った」などの声も。スムーズなときも、どん底のときも、常に寄り添い、あきらめず伴走してくださったこと、改めて感謝をお伝えいたします。



加盟団体 (5 団体 /2022 年 3 月時)



新公益連盟
Japan Association of New Public
ともに社会を変え、社会を創る。



FRJ
Forum for Refugees Japan
なんみんフォーラム



J-FUN
Japan Forum for UNHCR and NGOs



Japan Platform for Migrant Workers
towards Responsible and Inclusive Society
責任ある外国人労働者受け入れプラットフォーム

アフガニスタン退避者受け入れ
コンソーシアム

受賞履歴



SOCIAL GOOD
CATAPULT
FUKUOKA 2022 GOLD
ICC サミット FUKUOKA 2022
「ソーシャルグッド・カタパルト」優勝 (2022 年 2 月 17 日)



AVPN Youth Opportunity Platform
(アジアにおいて社会的インパクトを生み出す若者プラットフォーム)選出



■ 2021 年度 活動計算書

令和 3 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日まで

科目			金額
I 経常収益	1 受取会費	正会員会費 賛助会員会費	75,000 1,396,956
	2 受取寄附金		2,482,490
	3 受取助成金等		17,763,428
	4 事業収益		1,930,395
	5 雑収益		1,098,974
	経常収益 計		24,747,243
II 経常費用	1 事業費	(1) 人件費 法定福利費 (1) 人件費 集計 (2) その他経費 業務委託費 謝金 印刷製本費 会議費 交際費 旅費交通費 通信運搬費 消耗品費 水道光熱費 賃借料 減価償却費 租税公課 諸会費 研修費 支払手数料 支払報酬料 新聞図書費 (2) その他経費 集計	8,620,000 1,199,319 9,819,319 1,269,578 62,510 62,973 72,513 16,707 421,898 751,387 39,098 33,770 28,600 130,110 20,700 89,000 176,000 48,527 730,740 16,833 3,970,944 13,790,263
	2 管理費	(1) 人件費 法定福利費 福利厚生費 (1) 人件費 計 (2) その他経費 業務委託費 印刷製本費 通信運搬費 消耗品費 租税公課 支払手数料 広告宣伝費 (2) その他経費 集計	2,424,000 336,109 15,600 2,775,709 663,807 6,530 217,350 1,020 10,900 205,744 539,000 1,644,351
	3 経常費用 計		4,420,060
	4 経常費用 計		18,210,323
	当期経常増減額		6,536,920
III 経常外収益			29
	経常外収益 計		29
IV 経常外費用			523
	経常外費用 計		(494)
V 特別損失		固定資産売却損 税引前当期正味財産増減額 法人税、住民税及び事業税 当期正味財産増減額 前期総越正味財産額 次期総越正味財産額	1,079,557 5,456,869 70,000 5,386,869 19,873,048 25,259,917

Comment-01

234 名の方よりいただいた継続寄付の合計額になります。

Comment-02

三菱マテリアル株式会社様、ダイワハウスグループ様、株式会社ワールディング様、株式会社ジェイフィール様、新公益連盟様からのご寄付が含まれます（詳しくは14Pへ）。

Comment-03

Yogibo の TANZAQ プロジェクト（詳しくは16Pへ）の広告費や企業や学校等への講演料が含まれます。

Comment-04

今年度から開始した WEB マーケティングのコンサルタント費用や、顧客管理システムのカスタマイズ外注費用が含まれます。

Comment-05

HP のリニューアルに伴う費用が含まれます（詳しくは15Pへ）。

■ 2021 年度 貸借対照表

令和 4 年 3 月 31 日現在

科目			金額
資産の部	1 流動資産	普通預金 立替金 前払費用 未収入金	33,171,474 79,000 489,761 114,582
	1 流動資産 合計		33,854,817
	2 固定資産	有形固定資産 建物 土地	0 0
	2 固定資産 合計		0
	資産 合計		33,854,817
負債及び正味財産の部	1 流動負債	短期借入金 未払金 未払法人税等 預り金	317,382 1,814,627 70,000 392,891
	1 流動負債 合計		2,594,900
	2 固定負債	長期借入金	6,000,000
	固定負債 合計		6,000,000
	負債 合計		8,594,900
正味財産	前期総越正味財産額 当期正味財産増減額 正味財産 合計		19,873,048 5,386,869 25,259,917
	負債及び正味財産 合計		33,854,817

■ 2022 年度の WELgee

1 ガバナンス強化

2022 年度は、団体設立 6 年目を迎えます。休眠預金活用事業や寄付者増加に向けた施策の実施、多種多様なアクターとの協働事例の創出など、扱うお金の規模や支援事業の拡大に伴い、組織としての更なる信頼性の向上が求められています。2022 年春より、一般財団法人リーフ共創基金による組織基盤強化支援を受けながら、理事会・経営会議の再構成や規程類の整備等を進めていきます。情勢変化が激しい現代社会において、WELgee が届けられる支援を迅速かつ冷静に、信念を持った意思決定のもとで進めていくように、学生メンバーが立ち上げた組織からもう一段階成長し、更なる社会的インパクト創出のための土台となる、ガバナンス強化に取り組んでいきます。

2 連携拡大とマッチング数の増加

世界で故郷を追われた人の数が 1 億人を超えました。かつてない規模の「難民危機」を受けて、世界各地で難民とホスト社会の共生の在り方が一層模索されている中、WELgee でも、これまで 40カ国 200 人以上の難民にキャリア開発と社会活動の機会を届けてきた経験とネットワークをもとに、2022 年度も日本の民間セクターと難民の新しい関わり方を拡大・探究していきます。具体的には、多様な企業や NGO との連携を通じた難民人材のキャリア教育やスキル開発プログラムの拡充、ビジネスパーソンたちと難民人材のメンターシップ制度の確立、何よりさまざまな業界での難民人材の就労を通じた価値創造。目標は 2025 年に日本の企業 100 社で難民人材がイノベーション創出に従事している状態です。

3 ウクライナ情勢を追い風に、民間セクターへの認知拡大を目指す

2022 年度は、難民への社会的な機運の高まりを追い風に、民間セクターとの協働を拡大して行きます。具体的には、日本の中小企業経営者の先駆的な「イノベーター層」の 10 人に 1 人が「難民が人材として有用であり、自社で難民の人材採用をしたい」と認知している状態をつくるために、難民の人材の活躍事例を様々なメディアで可視化します。また、メディア関係者への積極的な勉強会の開催もします。さらに各業界のオピニオンリーダーを巻き込んだ発信を強化し、法人開拓を強化してまいります。

